

～アンケート調査について～

○調査の概要

・調査の目的

本調査は、芦屋市第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画の策定にあたり、障がい福祉サービスの利用実態や意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるための基礎資料とすることを目的として実施しました。

・アンケート調査対象者

芦屋市在住で、障がい者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）所持者もしくは障がい福祉サービス等利用者

・アンケート調査の実施方法

障がい福祉課より事業所宛てに利用者アンケート調査の入った封筒を市内在住利用者数分をお渡しし、利用者の方に配布していただきました。

封筒には、アンケート依頼文が同封されており、依頼文に記載されているQRコードを読み取り、WEB上のフォームに回答していただきました。なお、WEBでの回答が難しい方のために、紙でのアンケート調査票も同封しています。

※依頼文にコード番号を記載し、回答時に入力していただくことで重複回答を防いでいます

・回収結果

調査票配布数	回収数	回収率
250	124 ※成人105 児童19	49.6%

・注意点

◆回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示しています。小数第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。

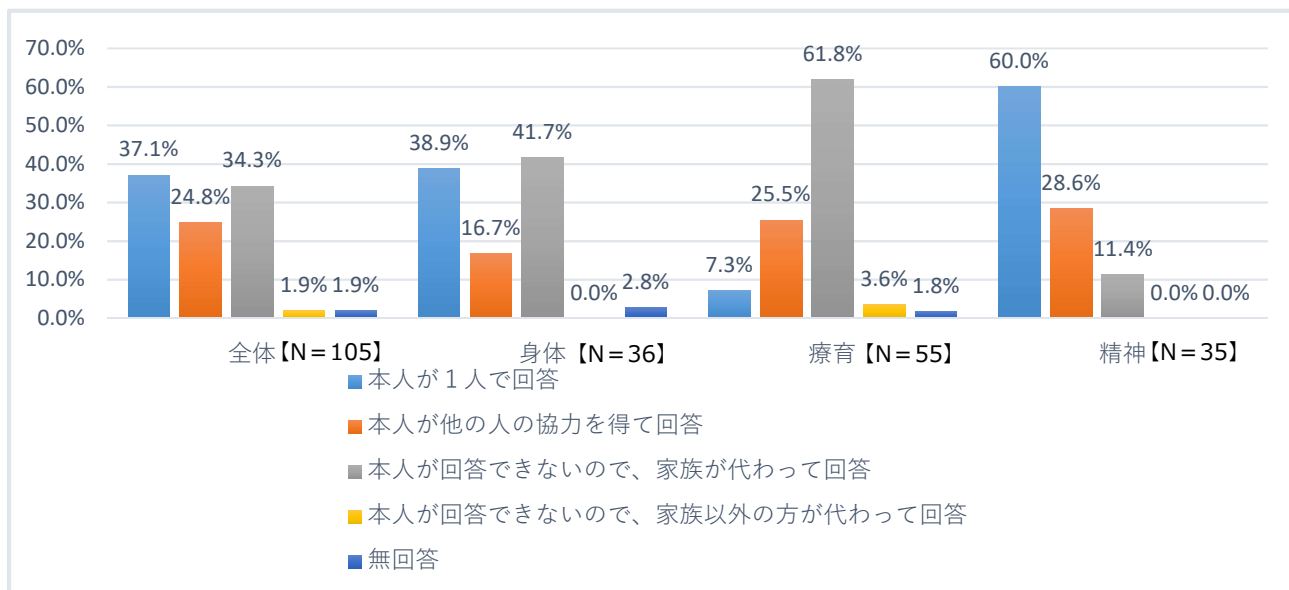
◆複数回答の質問は、回答比率の合計が100.0%を超えます。

◆図表中、表示が煩雑になることを避けるため、身体障害者手帳所持者は「身体」、療育手帳所持者の方は「療育」、精神障害者保健福祉手帳所持者の方は「精神」と表記しています。なお、重複して手帳を所持されている方がいるため、各手帳所持者数の合計は全体の回答者数を超えています。

○障がい福祉サービスアンケート調査（成人） まとめ

1 回答者の属性

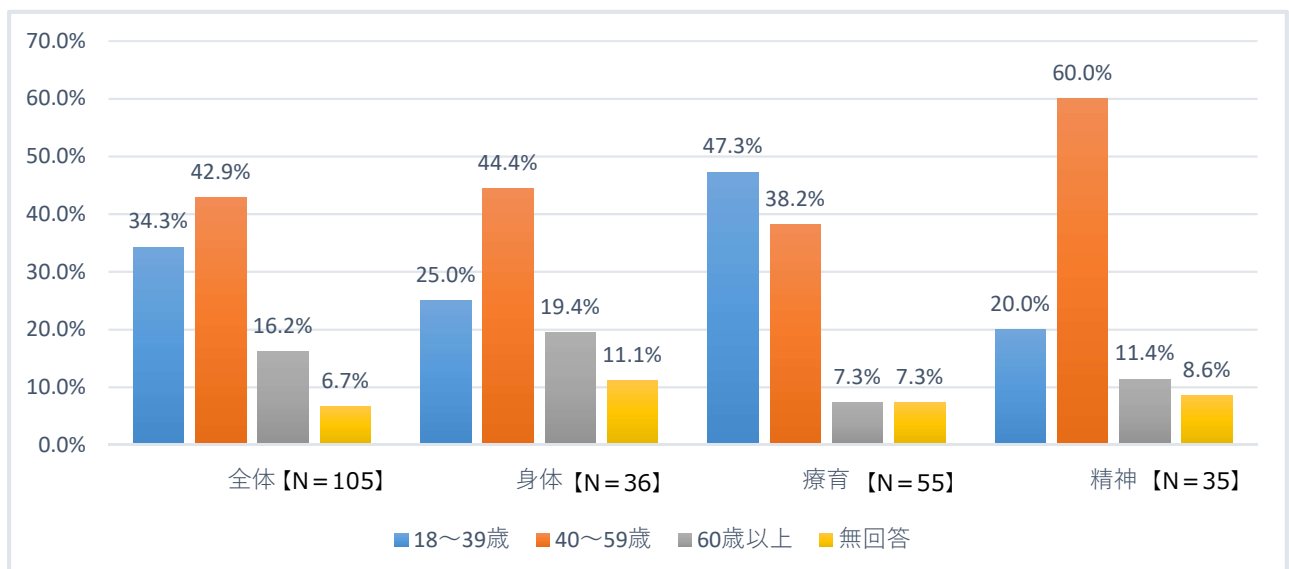
①回答者【N = 105】



回答者については、「本人が1人で回答」が37.1%で1番多く、続いて「本人が回答できないので、家族が代わって回答」が34.3%となっています。

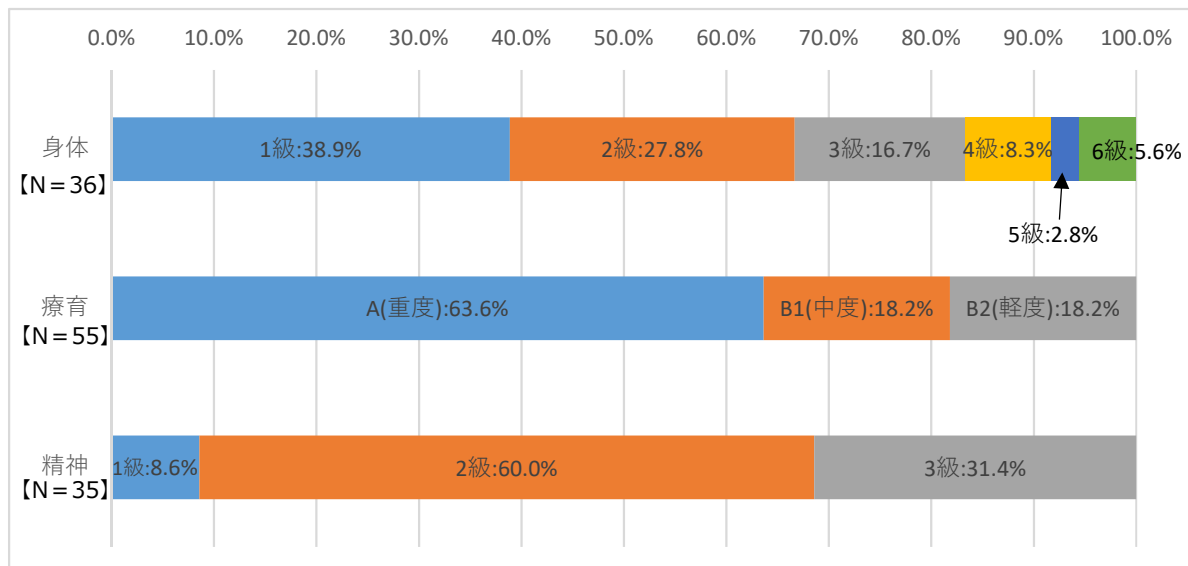
療育手帳所持者は、「本人が回答できないので、家族が代わって回答」している割合が61.8%と高くなっています。

②年齢【N = 105】



年齢については、「18～39歳」が34.3%、「40～59歳」が42.9%、「60歳以上」が16.2%となっています。アンケートは幅広い年代から回答していただいています。

③障がいの種類【N = 105】

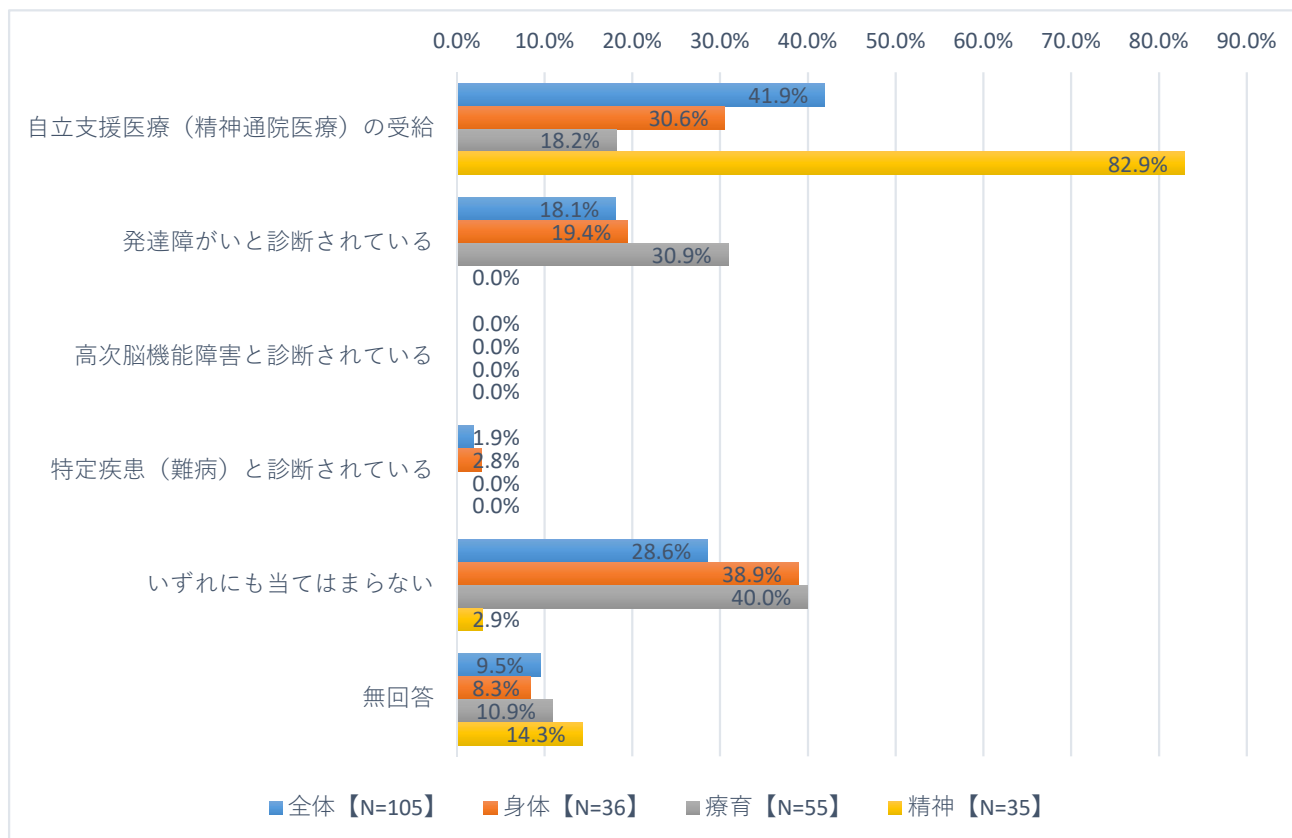


身体障害者手帳所持者の等級については、「1級」が38.9%、「2級」が27.8%、「3級」が16.7%、療育手帳所持者の等級については、「A（重度）」が63.6%、「B1（中度）」が18.2%、「B2（軽度）」が18.2%、精神障害者福祉手帳所持者の等級については、「1級」が8.6%、「2級」が60.0%、「3級」が31.4%となっています。

なお、身体障害者手帳を持っている人の主な障がいの種類は、「肢体不自由」が47.2%、「内部障がい」が36.1%、「視覚障がい」、「聴覚障がい・平衡機能障がい」がそれぞれ8.3%となっています。

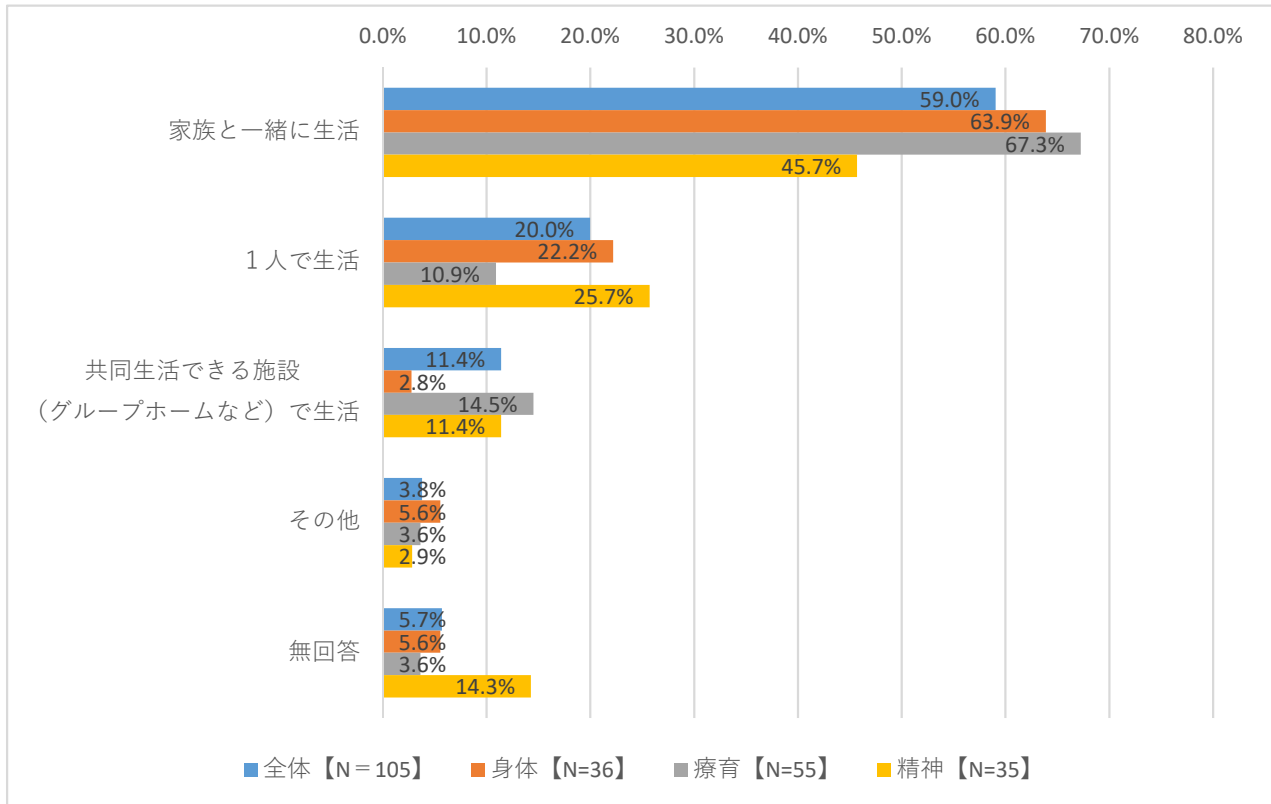
※「音声言語機能障がい・そしゃく障がい」：0人 ※手帳未所持者：7人

④障がいの診断



障がいの診断については、「自立支援医療（精神通院）の受給」が41.9%、「発達障がいと診断されている」が18.1%となっています。

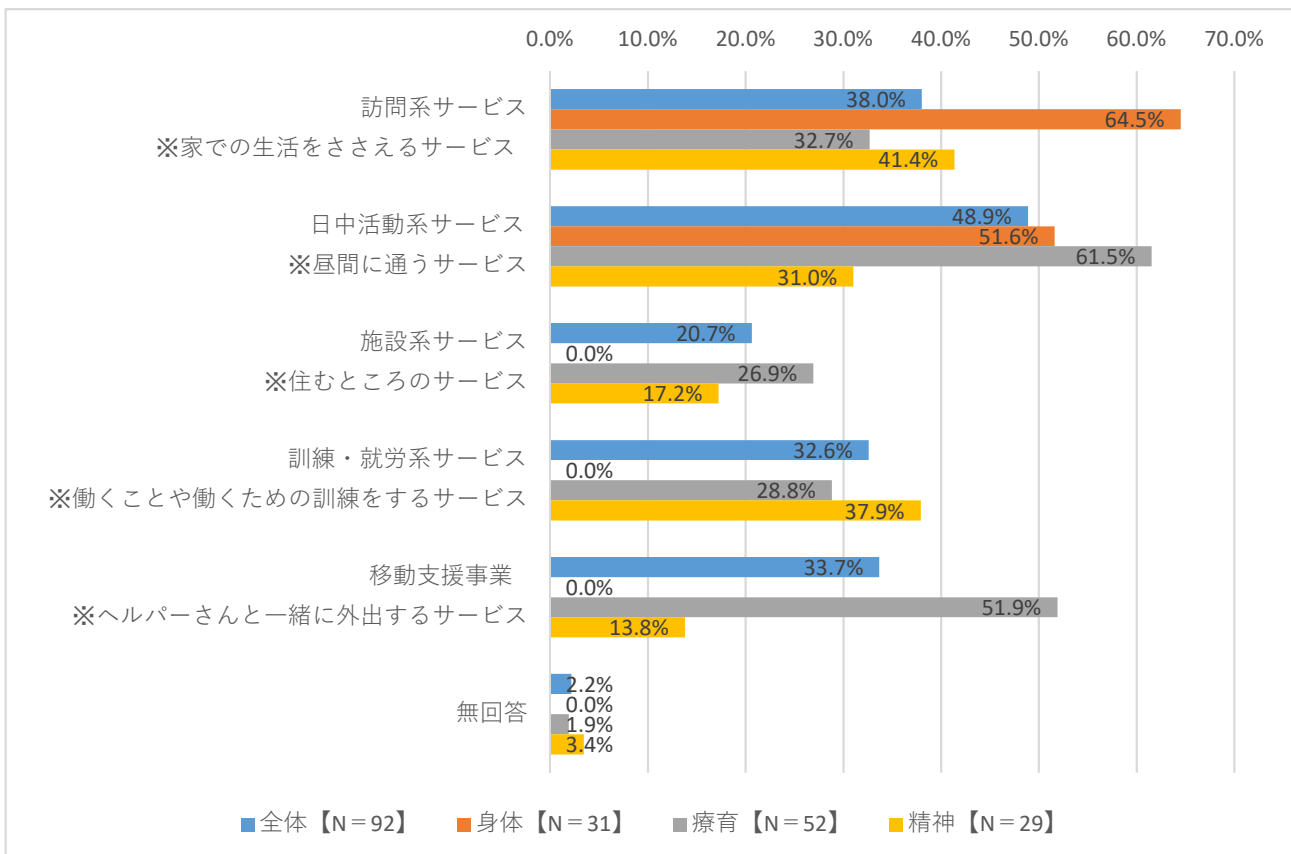
2 生活について



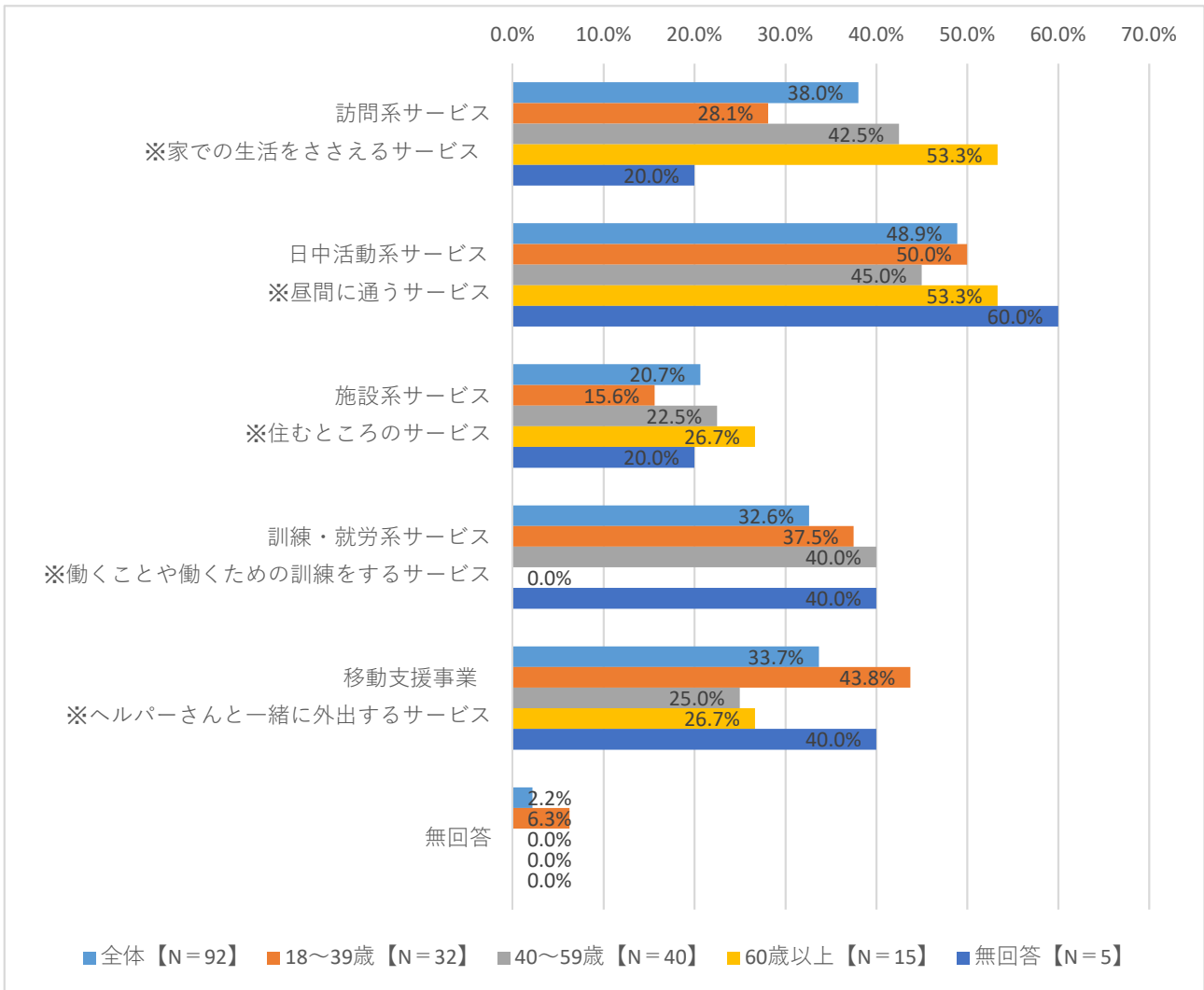
現在生活している場所については、「家族と一緒に生活」が59.0%、「1人で生活」が20.0%となっています。療育手帳所持者の方は、「家族と一緒に生活」が、精神保健福祉手帳所持者の方は、「1人で生活」が、他の手帳所持者に比べ割合が高くなっています。

3 障がい福祉サービスの利用について

①現在利用しているサービス（複数回答）【手帳種別ごと】



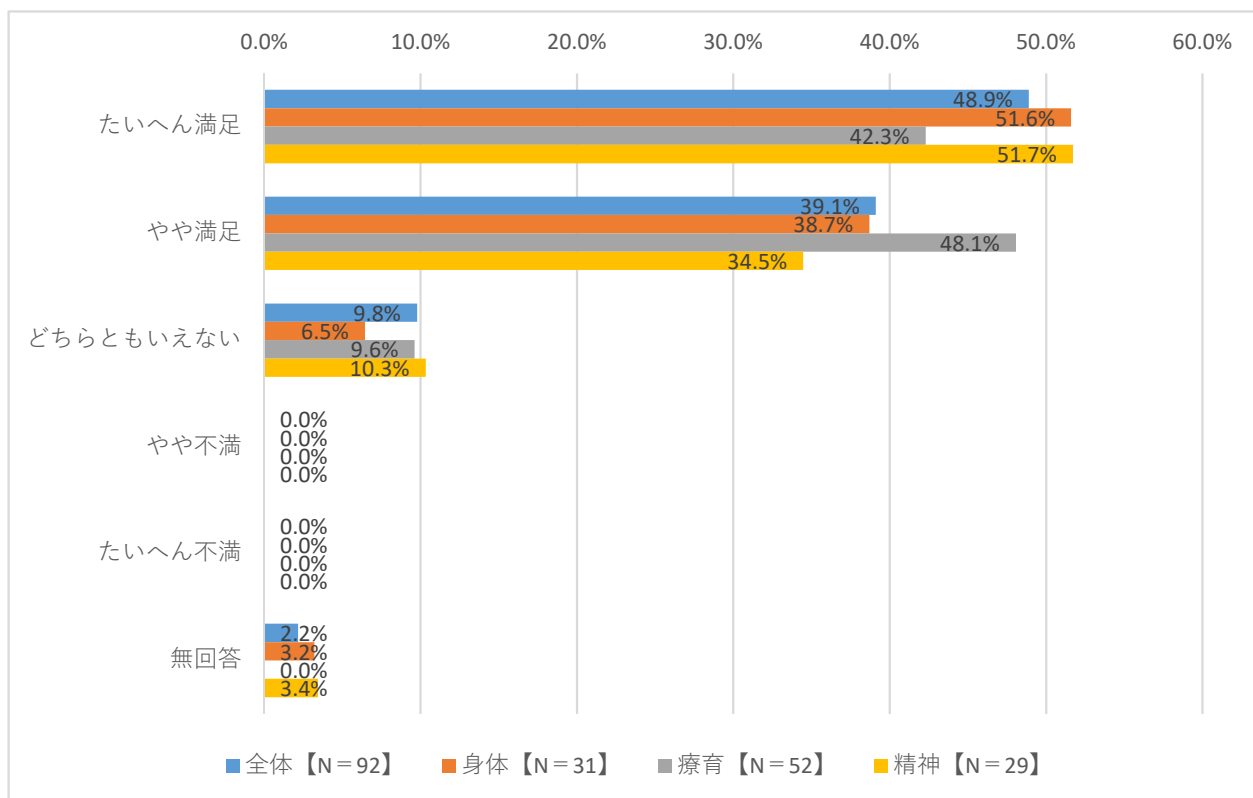
現在利用しているサービス（複数回答）【年齢別】



現在利用しているサービスは、手帳種類別では、「日中活動系サービス」が48.9%、「訪問系サービス」が38.0%、「移動支援事業」が33.7%、「訓練・就労系サービス」が32.6%、「施設系サービス」が20.7%となっています。身体障害者手帳所持者の方、精神障害者保健福祉手帳所持者の方は「訪問系サービス」が、療育手帳所持者の方は「日中活動系サービス」の割合が高くなっています。

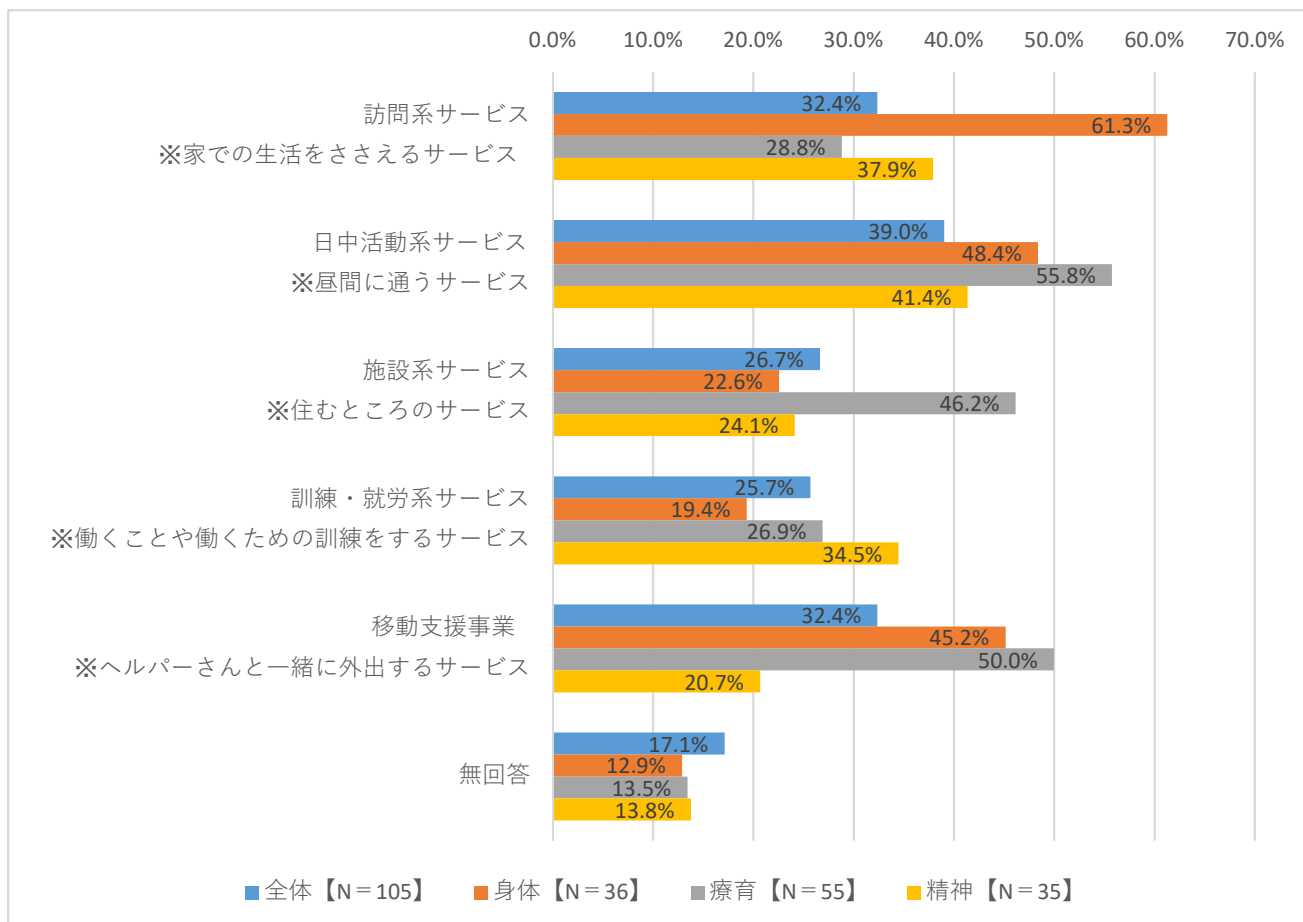
年齢別では、18～39歳は「日中活動系サービス」、「移動支援事業」、「訓練・就労系サービス」が、40～59歳は「日中活動系サービス」、「訪問系サービス」、「訓練・就労系サービス」が、60歳以上は「日中活動系サービス」、「訪問系サービス」の割合が高くなっています。

②利用しているサービスの満足度



利用している障がい福祉サービスについては、9割程度の方が「たいへん満足」、「やや満足」と回答しており、概ね障がい福祉サービスについては満足と感じています。

③今後3年以内に利用したいサービス（複数回答）



④現在利用しているサービスと3年以内に利用したいサービスの比較

	全体		身体		療育		精神	
	現在	3年以内	現在	3年以内	現在	3年以内	現在	3年以内
訪問系サービス	38.0%	32.4%	64.5%	61.3%	32.7%	28.8%	41.4%	37.9%
日中活動系サービス	48.9%	39.0%	51.6%	48.4%	61.5%	55.8%	31.0%	41.4%
施設系サービス	20.7%	26.7%	0.0%	22.6%	26.9%	46.2%	17.2%	24.1%
訓練・就労系サービス	32.6%	25.7%	0.0%	19.4%	28.8%	26.9%	37.9%	34.5%
移動支援事業	33.7%	32.4%	0.0%	45.2%	51.9%	50.0%	13.8%	20.7%
無回答	2.2%	17.1%	0.0%	12.9%	1.9%	13.5%	3.4%	13.8%

現在利用しているサービスと3年以内に利用したいサービスを比較したところ、身体障害者手帳所持者の方は、「施設系サービス」、「訓練・就労系サービス」、「移動支援事業」が、療育手帳所持者の方は「施設系サービス」が、精神障害者保健福祉手帳所持者の方は「日中活動系サービス」、「施設系サービス」、「移動支援事業」の希望が高くなっています。

各障がいにおいて、「施設系サービス」の希望が高まっていることから、グループホームへの入居に対するニーズが高まっていると言えます。

4 生活で困っていること・不安なこと（複数回答）

	全体	身体	療育	精神
N =	105	36	55	35
困った時に相談できる人がいない	11.4%	11.1%	10.9%	17.1%
生活を支援してくれる人がいない	8.6%	11.1%	5.5%	14.3%
一緒に暮らす人がいない	7.6%	8.3%	3.6%	17.1%
働く場所がない	5.7%	8.3%	7.3%	5.7%
お金が足りない	27.6%	27.8%	25.5%	31.4%
趣味や生きがいが見つけれない	15.2%	13.9%	9.1%	25.7%
生活するうえで必要な情報が得られない	5.7%	2.8%	7.3%	2.9%
自分の健康や体力に自信がない	40.0%	38.9%	34.5%	54.3%
家族など介護者の健康が不安	39.0%	33.3%	49.1%	34.3%
一緒に暮らしている家族との関係	11.4%	8.3%	9.1%	8.6%
必要な時に診てくれる病院がない	2.9%	2.8%	5.5%	0.0%
将来的に生活する住まい、施設があるかどうか不安	45.7%	41.7%	58.2%	42.9%
生活に必要な福祉サービスが利用できない	3.8%	2.8%	7.3%	0.0%
特に困っていることはない	13.3%	25.0%	7.3%	17.1%
その他	14.3%	13.9%	10.9%	20.0%
無回答	1.0%	0.0%	1.8%	0.0%

生活で困っていること・不安なことについては、「将来的に生活する住まい、施設があるかどうか不安」が45.7%、「自分の健康や体力に自信がない」が40.0%、「家族など介護者の健康が不安」が39.0%、「お金が足りない」が27.6%となっています。

療育手帳所持者の方は、「将来的に生活する住まい、施設があるかどうか不安」、「家族など介護者の健康が不安」の割合が高くなっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者の方は、「自分の健康や体力に自信がない」、「将来的に生活する住まい、施設があるかどうか不安」の割合が高くなっています。

生活で困っていること・不安なこと（前回調査との比較）

	身体		療育		精神	
	R1	R5	R1	R5	R1	R5
N=	406	36	283	55	191	35
困った時に相談できる人がいない	10.3%	11.1%	9.9%	10.9%	15.7%	17.1%
生活を支援してくれる人がいない	4.7%	11.1%	4.2%	5.5%	10.5%	14.3%
一緒に暮らす人がいない	2.7%	8.3%	1.8%	3.6%	7.3%	17.1%
働く場所がない	7.9%	8.3%	5.7%	7.3%	15.2%	5.7%
お金が足りない	18.7%	27.8%	13.4%	25.5%	37.2%	31.4%
趣味や生きがいが見つけられない	10.8%	13.9%	12.7%	9.1%	30.4%	25.7%
生活するうえで必要な情報が得られない	6.2%	2.8%	7.1%	7.3%	7.9%	2.9%
自分の健康や体力に自信がない	31.3%	38.9%	10.6%	34.5%	52.4%	54.3%
家族など介護者の健康が不安	20.7%	33.3%	25.1%	49.1%	34.0%	34.3%
一緒に暮らしている家族との関係	6.9%	8.3%	6.4%	9.1%	22.0%	8.6%
必要な時に診てくれる病院がない	3.0%	2.8%	3.5%	5.5%	4.7%	0.0%
将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか不安	27.8%	41.7%	48.8%	58.2%	37.7%	42.9%
生活に必要な福祉サービスが利用できない	10.1%	2.8%	12.7%	7.3%	12.6%	0.0%
特に困っていることはない	26.4%	25.0%	19.1%	7.3%	11.0%	17.1%
その他	6.7%	13.9%	8.1%	10.9%	7.9%	20.0%
無回答	6.7%	0.0%	8.8%	1.8%	5.8%	0.0%

前回調査（令和元年度）と比較すると、すべての障がい種別において「将来的に生活する住まい、施設があるかどうか不安」の割合が大幅に高くなっています。

身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者の方は、「家族など介護者の健康が不安」の割合が大幅に高くなっています。精神障害者保健福祉手帳所持者の方は、「一緒に暮らす人がいない」の割合が高くなっています。

（その他意見【生活で困っていること・不安なこと】）

- ・日中の居場所が少ない。【身体】
- ・運動する機会が少ない。【身体】
- ・将来的に親がいなくなった時の生活が不安。【療育】
- ・障害年金を受給できない場合、経済的な理由で病気から自立できない社会になっている。【手帳無】
- ・どれだけ節約を頑張っても、物価高騰の影響で生活が苦しい。子どもにお金がかかり、最低限の生活すらできていない。【療育】
- ・親が常に介護をしているため、趣味、旅行などの時間が取れない。短期入所をもっと利用しやすくして欲しい。【療育】
- ・通院できる歯医者がない。【療育】
- ・老障介護（高齢の親が障がいのある子を介護すること）に向かっている。自分のような者が本当の意味で親から自立して幸せに過ごせる社会なのでしょうか。【精神】
- ・親自身も老々介護である。【精神】
- ・一緒に暮らしている父が要介護で、今後介護する側になるのが不安。【精神】
- ・病気がなかなか治らない。【精神】

5 地域で生活するために必要なこと（5つまで回答）

	全体	身体	療育	精神
N =	105	36	55	35
昼間の介護を頼める人がいること	17.1%	19.4%	20.0%	17.1%
夜間などの介護を頼める人がいること	23.8%	50.0%	32.7%	14.3%
主治医や医療機関が近くにあること	41.0%	44.4%	29.1%	62.9%
食事の心配をしなくていいこと（配食サービス）	37.1%	75.0%	49.1%	40.0%
掃除や洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること	30.5%	50.0%	32.7%	34.3%
昼間のサービスを提供する事業所に通えること	33.3%	69.4%	45.5%	31.4%
必要な時に数日間、施設に泊まりに行くサービス（短期入所）が利用できること	21.0%	47.2%	30.9%	14.3%
医療機関や事業所に通うための送迎が受けられること	21.9%	44.4%	29.1%	8.6%
外出の際に介助する人（ガイドヘルパー）を頼めること	22.9%	47.2%	30.9%	8.6%
安心して相談できる相談員や窓口があること	51.4%	61.1%	40.0%	71.4%
各種サービス利用や手続きを一括して頼めること	20.0%	25.0%	16.4%	25.7%
生活するのに必要な収入があること	40.0%	50.0%	32.7%	42.9%
お金の管理を安心して任せられること	16.2%	33.3%	21.8%	8.6%
近隣の人や地域の人が理解・協力してくれること	14.3%	25.0%	16.4%	11.4%
自分の居場所があること	25.7%	41.7%	27.3%	20.0%
安心して住み続けられる家があること	24.8%	36.1%	23.6%	22.9%
仲間と一緒に住める家（グループホームなど）があること	20.0%	50.0%	32.7%	2.9%
家族と一緒に暮らせること	21.9%	33.3%	21.8%	25.7%
分からない	2.9%	5.6%	3.6%	2.9%
その他	1.0%	0.0%	0.0%	2.9%

地域で生活するために必要なことは、「安心して相談できる相談員や窓口があること」が51.4%、「主治医や医療機関が近くにあること」が41.0%、「生活するのに必要な収入があること」が40.0%、「食事の心配をしなくていいこと（配食サービス）」が37.1%となっています。

身体障害者手帳・療育手帳所持者の方は、「食事の心配をしなくていいこと（配食サービス）」、「昼間のサービスを提供する事業所に通えること」が、精神障害者保健福祉手帳所持者の方は、「安心して相談できる相談員や窓口があること」、「主治医や医療機関が近くにあること」の割合が高くなっています。

地域で生活するために必要なこと（前回調査との比較）

	身体		療育		精神	
	R1	R5	R1	R5	R1	R5
N =	406	36	283	55	191	35
昼間の介護を頼める人がいること	6.9%	19.4%	9.9%	20.0%	3.1%	17.1%
夜間などの介護を頼める人がいること	9.1%	50.0%	11.3%	32.7%	3.1%	14.3%
主治医や医療機関が近くにあること	30.3%	44.4%	20.1%	29.1%	34.6%	62.9%
食事の心配をしなくていいこと（配食サービス）	15.8%	75.0%	20.1%	49.1%	20.9%	40.0%
掃除や洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること	15.0%	50.0%	16.3%	32.7%	17.8%	34.3%
昼間のサービスを提供する事業所に通えること	6.2%	69.4%	22.6%	45.5%	11.5%	31.4%
必要な時に数日間、施設に泊まりに行くサービス（短期入所）が利用できること	6.4%	47.2%	17.0%	30.9%	6.8%	14.3%
医療機関や事業所に通うための送迎が受けられること	17.5%	44.4%	15.9%	29.1%	10.5%	8.6%
外出の際に介助する人（ガイドヘルパー）を頼めること	7.6%	47.2%	17.3%	30.9%	2.6%	8.6%
安心して相談できる相談員や窓口があること	21.2%	61.1%	30.0%	40.0%	40.3%	71.4%
各種サービス利用や手続きを一括して頼めること	14.0%	25.0%	16.6%	16.4%	23.0%	25.7%
生活するのに必要な収入があること	43.6%	50.0%	39.9%	32.7%	61.8%	42.9%
お金の管理を安心して任せられること	5.4%	33.3%	18.4%	21.8%	13.1%	8.6%
近隣の人や地域の人が理解・協力してくれること	9.6%	25.0%	18.0%	16.4%	14.1%	11.4%
自分の居場所があること		41.7%		27.3%		20.0%
安心して住み続けられる家があること	36.7%	36.1%	31.1%	23.6%	22.0%	22.9%
仲間と一緒に住める家（グループホームなど）があること	5.9%	50.0%	21.6%	32.7%	43.5%	2.9%
家族と一緒に暮らせること	29.3%	33.3%	29.7%	21.8%	21.5%	25.7%
分からない	7.9%	5.6%	6.7%	3.6%	5.2%	2.9%
その他	3.2%	0.0%	1.1%	0.0%	4.2%	2.9%

前回調査（令和元年度）と比較すると、すべての障がい種別において「食事の心配をしなくていいこと（配食サービス）」、「昼間のサービスを提供する事業所に通えること」、「安心して相談できる相談員や窓口があること」の割合が高くなっています。

身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者の方は、「昼間のサービスを提供する事業所に通えること」の割合が高くなっています。精神障害者保健福祉手帳所持者の方は、「安心して相談できる相談員や窓口があること」の割合が高くなっています。

6 その他意見

- ・趣味やスポーツなど一緒にできるサークル、グループがあり、仲間と交流して元気に楽しめたらいいなと思う。【身体】
- ・自分の障がい改善する医療があるのなら受けてみたい。【身体】
- ・障がいがあるなしにかかわらず、全ての人がその人らしく生きていける社会でありたいです。【身体・精神】
- ・グループホームでの生活を希望していますが、重度の身体障がいの方が暮らせるグループホームが芦屋にない。【身体】
- ・日中行ける生活介護施設が少なく、本人に合ったところを選ぶことができにくい。生活介護施設とショートステイの連携が取れていると利用しやすい【身体・療育】
- ・地域で生活するには、地域の理解・協力が不可欠。もっと障がいがある人（だけでなく多様な個性のある方）と関わる機会が増えれば地域で暮らしやすくなるのでは。【身体・療育】
- ・親が高齢になってくるので市内で施設又はグループホームを作ってほしい。【身体・療育】
- ・ずっと元気にひとり暮らしがしたいです。ガイドヘルパーさんとお出かけして楽しみたいです。【療育】
- ・自分はずっとホームで暮らすのかな？土・日は時々家に帰っています。【精神】
- ・本当は、自分の障がい早く治れば良いなといつでも願っています。【精神】

○障がい福祉サービスアンケート調査（児童） まとめ

1 回答者数

19人

2 障がいの種類

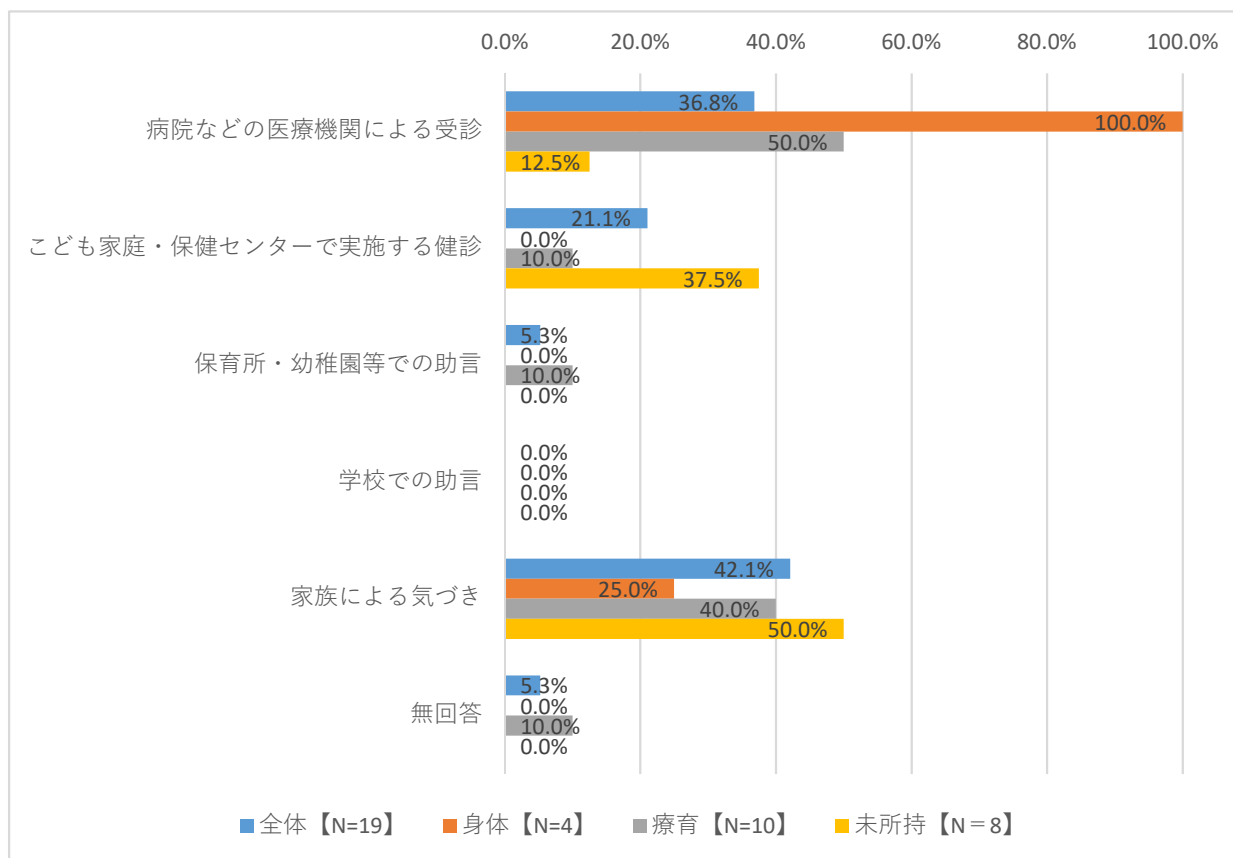
①身体障害者手帳所持者：4人

②療育手帳所持者の方：10人

③所持していない：8人

※①②重複所持者あり

3 障がいや発達課題に気づいたきっかけ（複数回答）



子どもの障がいや発達課題に気づいたきっかけを聞いたところ、「家族による気づき」、「病院などの医療機関による受診」の割合が高くなっています。

身体障害者手帳所持者の方は「病院などの医療機関による受診」が、療育手帳所持者の方は「病院などの医療機関による受診」、「家族による気づき」が、手帳未所持の方は「家族による気づき」、「子ども家庭・保健センターで実施する健診」の割合が高くなっています。

4 悩みや困ったことがある場合の相談先

①ある：18人

②ない：1人

③相談先がある場合の相談先

【身体】

⇒障がい者団体、相談支援専門員、学校、障がい児通所支援、ヘルパーさん

【療育】

⇒療育の先生、学校・保育園、病院の主治医・心理士、発達外来の先生、障がい者団体、相談支援専門員、障がい児通所支援

【未所持】

⇒こども家庭・保健センター、すくすく学級、療育の先生、病院の主治医、保育園

5 障がい児通所支援の利用状況（放課後等デイサービス、児童発達支援など）

※アンケート調査回答者全員利用

①利用しているサービスの種類

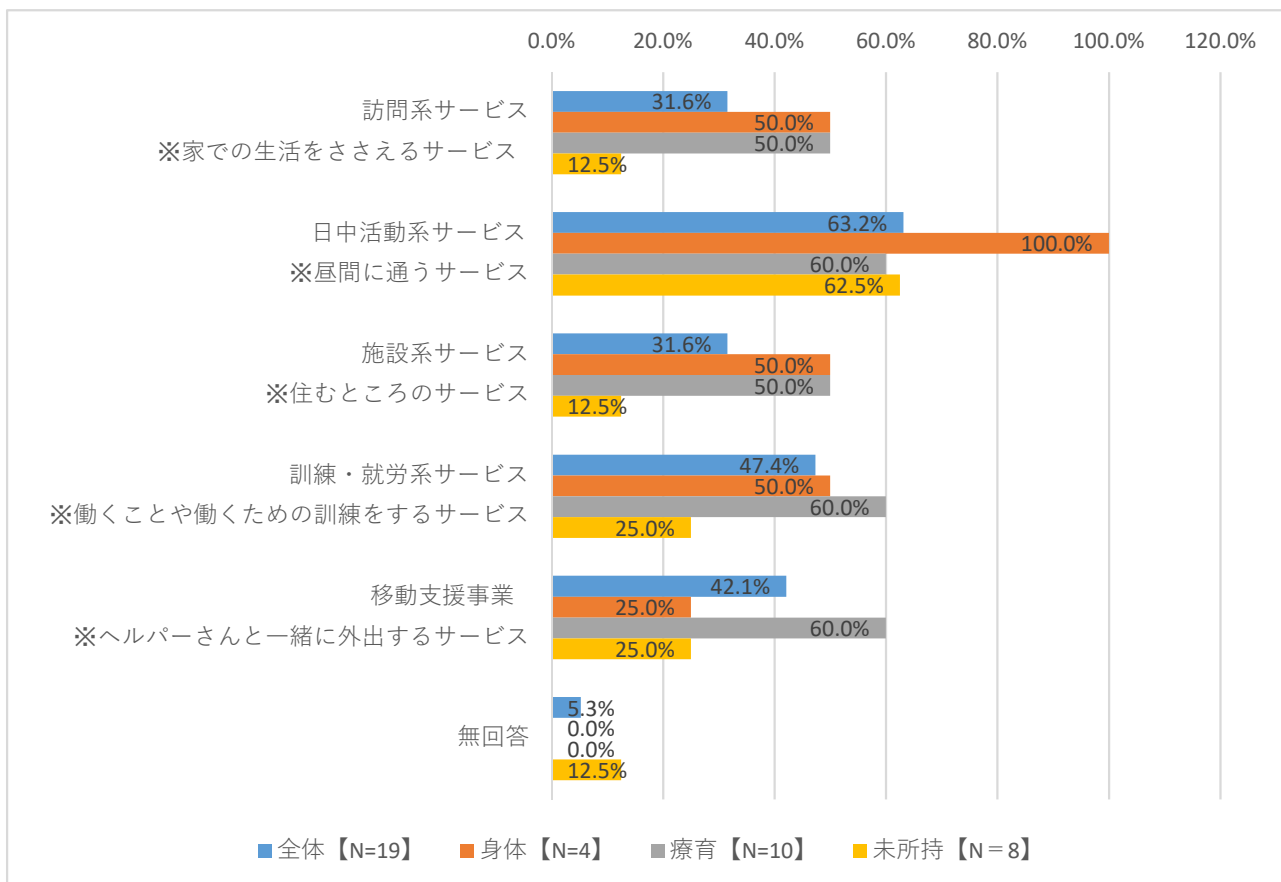
- ・放課後等デイサービス：7人
- ・児童発達支援：12人
- ・保育所等訪問支援：3人

②サービスの満足度 ※保護者が子どもに確認

- ・楽しい：13人
- ・まあまあ楽しい：5人
- ・あまり楽しくない：1人

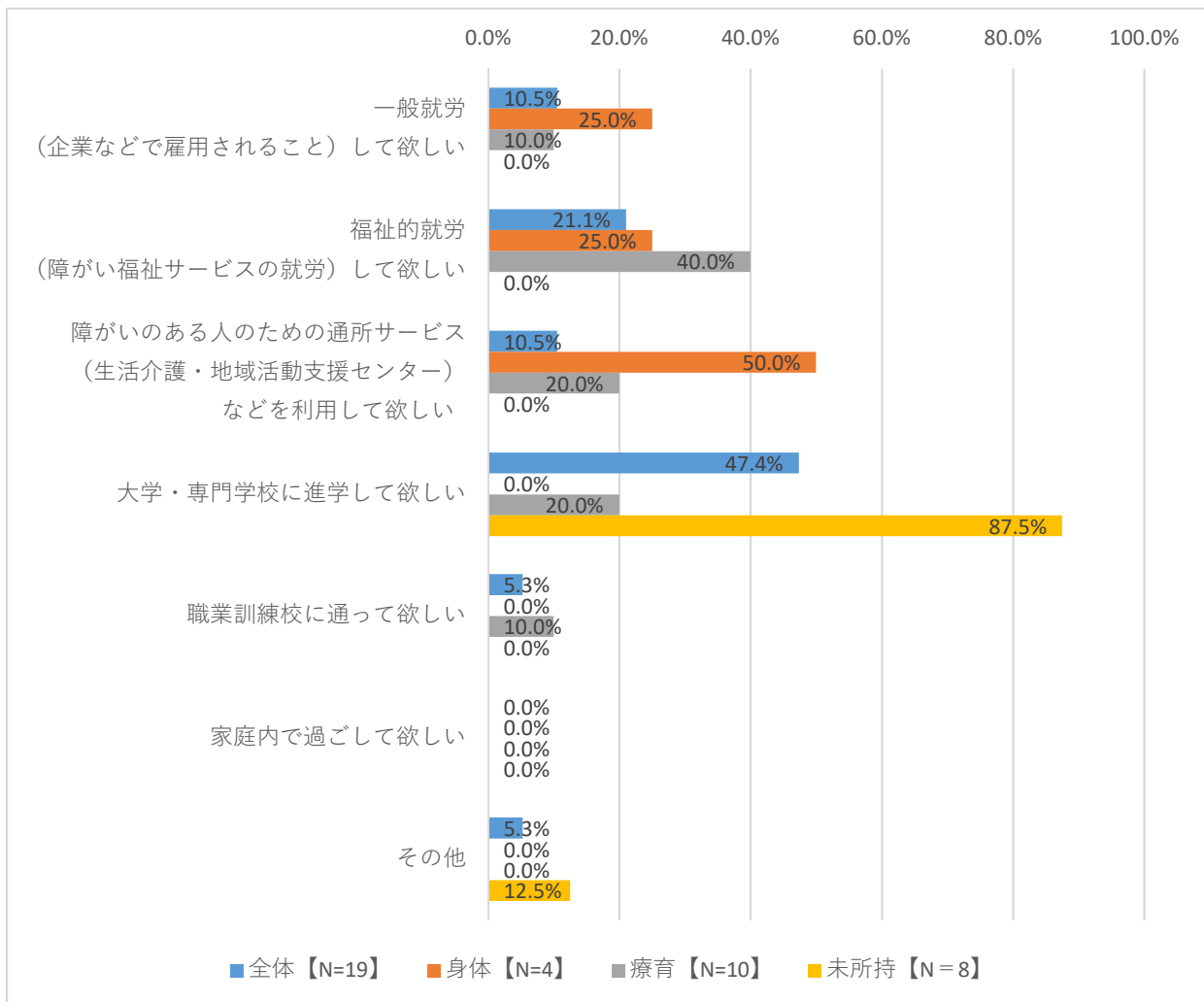
※あまり楽しくない理由：好きな活動がない、仲の良い友達がない、好きな先生がない、部屋が狭い

6 子どもが将来利用したい、または、子どもに将来利用して欲しいサービスの種類（複数回答）



子どもが将来利用したい、または、子どもに将来利用して欲しいサービスの種類を聞いたところ、「日中活動系サービス」、「訓練・就労系サービス」、「移動支援事業」の割合が高くなっています。

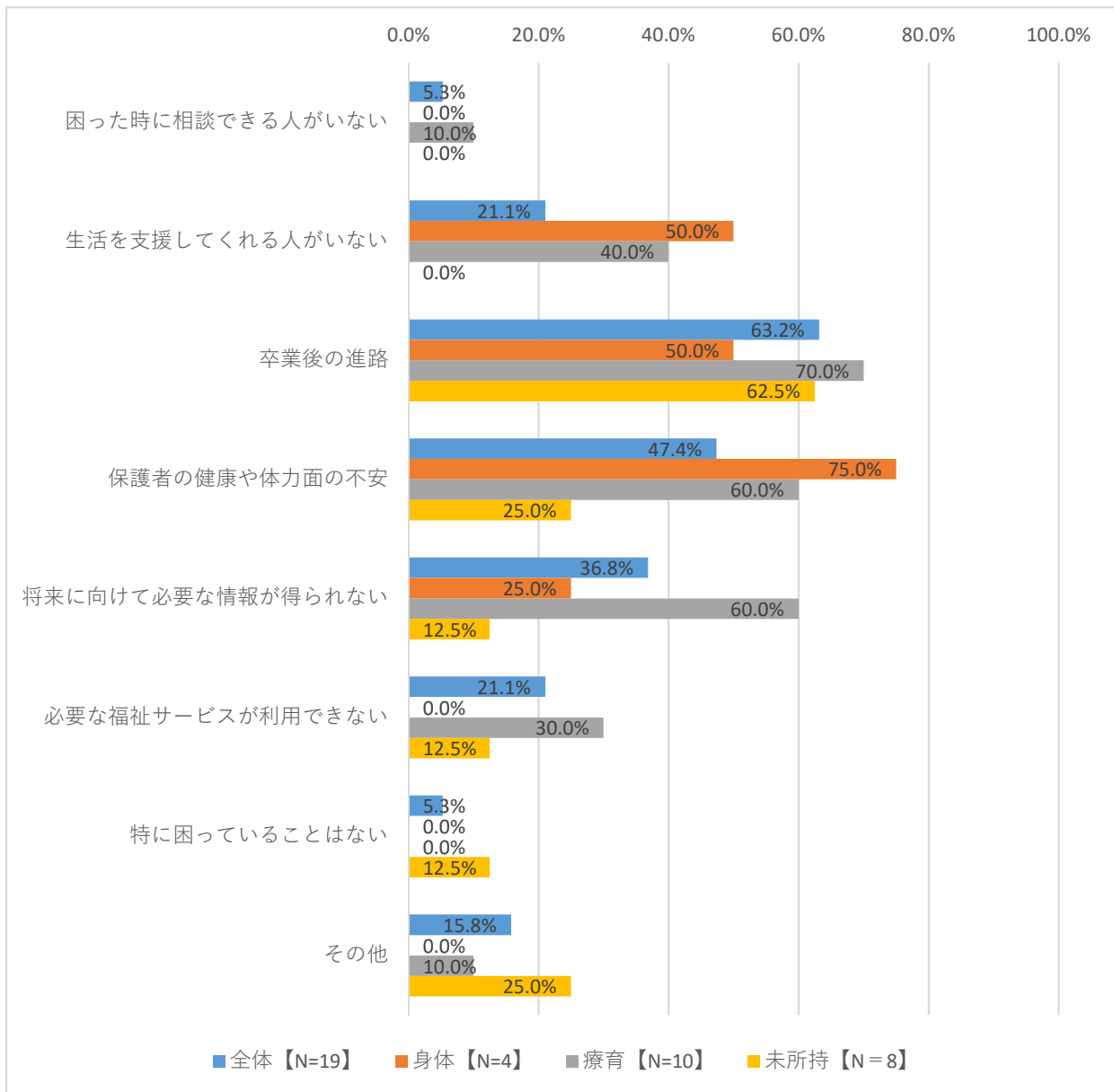
7 子どもの高等学校・高等部を卒業後の日中の過ごし方



子どもの高等学校・高等部を卒業後の日中の過ごし方を聞いたところ、「大学・専門学校に進学して欲しい」、「福祉的就労して欲しい」の割合が高くなっています。

手帳未所持の方は「大学・専門学校に進学して欲しい」の割合が特に高くなっています。

8 子どもや保護者の方が、現在の生活で困っていること・不安に思っていること（複数回答）



子どもや保護者の方が、現在の生活で困っていること・不安に思っていることを聞いたところ、「卒業後の進路」、「保護者の健康や体力面の不安」、「将来に向けて必要な情報が得られない」の割合が高くなっています。

その他意見として、「将来学校等での集団生活になじめるのかどうか」、「希望する学校園に入学できるのかどうか」、などがあります。

9 子どもが将来地域で生活するために必要なこと（5つまで回答）

	全体	身体	療育	未所持
N =	19	4	10	8
昼間の介護を頼める人がいること	10.5%	25.0%	10.0%	12.5%
夜間などの介護を頼める人がいること	5.3%	25.0%	10.0%	0.0%
主治医や医療機関が近くにあること	10.5%	0.0%	0.0%	25.0%
食事の心配をしなくていいこと（配食サービス）	21.1%	50.0%	40.0%	0.0%
掃除や洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること	15.8%	50.0%	30.0%	0.0%
昼間のサービスを提供する事業所に通えること	36.8%	50.0%	50.0%	25.0%
必要な時に数日間、施設に泊まりに行くサービス（短期入所）が利用できること	5.3%	25.0%	10.0%	0.0%
医療機関や事業所に通うための送迎が受けられること	15.8%	0.0%	20.0%	12.5%
外出の際に介助する人（ガイドヘルパー）を頼めること	10.5%	25.0%	10.0%	12.5%
安心して相談できる相談員や窓口があること	42.1%	25.0%	30.0%	50.0%
各種サービス利用や手続きを一括して頼めること	26.3%	25.0%	20.0%	37.5%
生活するのに必要な収入があること	63.2%	25.0%	60.0%	62.5%
お金の管理を安心して任せられること	31.6%	50.0%	40.0%	25.0%
近隣の人や地域の人が理解・協力してくれること	31.6%	0.0%	30.0%	37.5%
自分の居場所があること	52.6%	25.0%	40.0%	62.5%
安心して住み続けられる家があること	36.8%	25.0%	40.0%	25.0%
仲間と一緒に住める家（グループホームなど）があること	15.8%	25.0%	30.0%	0.0%
家族と一緒に暮らせること	15.8%	25.0%	10.0%	12.5%
分からない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

子どもが将来地域で生活するために必要なことは、「生活するのに必要な収入があること」が63.2%、「自分の居場所があること」が52.6%、「安心して相談できる相談員や窓口があること」が42.1%、「昼間のサービスを提供する事業所に通えること」が36.8%となっています。

10 その他意見

- ・芦屋市の放課後等デイサービスを増やしてほしい（空きがない）。【身体・療育】
- ・サービスの支給量が他市に比べ著しく少ないので増やして欲しい。【療育】【手帳未所持】
- ・移動支援の利用申請をしているが、事業所が混んでいるため利用できない。【療育】
- ・自力で通所できる事業所が限られている。遠い事業所は送迎がなければ利用できない。【療育】
- ・希望する学校園に入学できるか不安。【手帳未所持】